

## 第6学年の実践

北川 尊士

【単元名】「自分の考えを伝えよう」

【教材名】「平和について考える」，資料「平和のとりでを築く」（光村図書6年）

### 1 学級の実態

- ・ 意見・事実の区別はできるものの、意見文を書くときはいつも頭括型になっている子どもが多い。
- ・ 目的や意図に応じて効果的に頭括型・尾括型・双括型を用いて、自分の考えが明確になるとともに伝えようとする相手が理解できるように文章を構成することに課題がある。
- ・ 自分の考えを説明するために図や表を使うとわかりやすいということは、理解できている。
- ・ 図や表または文章を引用するとき、十分に理解せずに使ってしまう、何を伝えたいかがかえって分からなくなってしまうことがある。

### 2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識（公/私）	ジャンル
保護者・5年生	平和の大切さについての自分の考えを伝えるため	公	意見文

### 3 学習目標

#### (1) 態度目標

目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、全体の構成を考えながら、適切に書こうとすることができる。

#### (2) 価値目標

人や社会に目を向けて、平和についての自分の考えを見つめ直し、考えを再構築することができる。

#### (3) 技能目標

考えたことなどから書くことを決めることができるように比較したり、関係付けたりしながら課題意識を明確にすることができる。

自分の考えを明確に表現することができるように目的や意図に応じて効果的に頭括型・尾括型・双括型などを用いて、文章構成することができる。

自分の考えが伝わるように効果的にグラフや図を用いたり、引用したりして書くことができる。

#### (4) 年間技能目標における位置づけ（◎は重点的に指導）

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
6/7	黒崎宿の紹介パンフレットを作ろう	ようこそ、わたしたちの町へ	紹介文		○		◎			○
9	自分の考えを伝えよう	「平和」について考える	意見文			○	◎		○	
11	読みとったこと感じたことを表しよう	この絵、わたしはこう見る	意見文	○		◎	○	○		
12	自分と本とのかわりについて考えよう	本は友達	意見文				○	◎		
1	自分を見つめ直し、エッセイを書こう	自分を見つめ直して	随筆				◎		○	

#### 4 単元構成図

単元名・教材名 **自分の考えを伝えよう 光村図書6年**  
**～平和について考え、メッセージ集をつくろう～**  
**「平和について考える」【総時数11時間】**

### 学習の活動目標

### 学習目標

#### 第1次（2時）

※《》は評価規準

教室に展示された資料や学級文庫にある図書資料を見て、学習問題を設定し、学習計画を立てる。（一人一人の課題を決める。）

平和について関心をもつことができる。  
《平和に関する自分の課題を決めている》

#### 第2次（4時）

「平和のとりでを築く」を読み、筆者である大牟田さんの考えと論理について考える。

筆者の考えを論理に気づくことができる。  
《筆者の意見とそのわけを見つけている》

文章構成について考え、意見文の書き方を見つける。

筆者の文章構成のよさに気づくことができる。

<意見を述べる文章構成>

- 1 意見 2 根拠となるできごと
- 3 予想される反論とそれに対する考え
- 4 意見のくり返し

《意見文の書き方について理解している》

#### 第3次（3時）

自分の課題について調べ、情報を選択して構成を考え、意見文を書く。

構成を考えて、自分の意見文を書くことができる。  
《カードを操作し、構成を考えて意見文を書いている》

#### 第4次（2時）

メッセージ集を作り、学級で交流後、保護者や5年生に伝える会を行い、学習のまとめをする。

自分のメッセージを学級で交流することができる。  
《平和に関するメッセージを推敲している》

平和についての自分の考えを伝えることができる。  
《相手に伝える工夫をして紹介している》

## 5 学習活動と指導の実際

### <意識の醸成>

事前に平和に関する資料を教室の後ろのたなのところにコーナーを設置し、展示した。

また、学級文庫の一部に「平和について考える本のコーナー」を設置し、図書資料を用意した。

第一次・・

#### ① 学習内容（2時間）

- 教室に展示された資料や学級文庫にある図書資料を見て、学習問題を設定し、学習計画を立てる。（一人一人の課題を決める。）（1時間）

<p>&lt;学習計画&gt; 1 1時間</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 学習問題を決めて、学習計画を立てる。</li><li>2 自分の作文を書く。（一次作文）</li><li>3 4 「平和のとりでを築く」を読んで、筆者である大牟田さんの考えと論理について考える。</li><li>5 6 「平和について考える」を読んで、文章構成について考え、意見文のよい書き方を見つける。</li><li>7 自分の課題について調べる。</li><li>8 情報を選択して構成を考える。</li><li>9 意見文を書き直す。（二次作文）</li><li>10 メッセージ集をつくる。</li><li>11 お家に人や5年生に伝える会を行い、学習のまとめをする。</li></ol>
---

- 意見文（一次作文）を書く。（1時間）

#### ② 指導内容

子どもたちが、平和に関心をもって、平和に関する図書資料を手にすることができるように図書コーナーや展示コーナーを設定した。この図書資料を手にとって読んでいる子どもたちの会話の中の「日本は戦争をしていないので平和だと思うけど、いまでも世界のどこか戦争をしているので、どうしたら戦争がなくなるのかな。」という言葉を取り上げた。

そして、この言葉をもとに子どもたちとともに学習問題「平和の大切さについて自分の考えを伝えよう」を設定し、学習計画を立てた。

まず、「平和は大切だから、戦争をしてはいけない。」という子どもの思いをまとめることができるように実際に自分の考えを書く活動（一次作文）を設定した。

すると「調べていないから書けないので、調べていいですか。」という子どもの意見がでてきたので、この意見をとり上げて、解決方法を考える活動を行った。

この意見を元に課題を解決することができるように教室の図書資料やインターネットをつかって、各自が調べて平和に関する意見文を書く活動を行った。

その後、「しらべただけじゃ、わからないよ。みんなそのまま、資料を写しているだけ、分かるように書かないと」という意見がでてきたので、「分かる書き方」について子どもたちに問い、「文字をきれいに書く」「自分の分かる言葉に書き直す」「さし絵や図、グラフを使う」という3つの方法で意見文を書くよさに気がつくように子どもの意見をまとめた。

「みんなが分かる書き方を今から考えれば、いいと思います。」という子どもの思いを引き出すために「どのように書くのか分かりません。」という子どもの疑問を取り上げ、「平和について考える」と出会わせた。

第二次・・

①学習内容

(4時間)

- 「平和のとりでを築く」を読み、筆者である大牟田さんの考えと論理について考える。(2時間)
- 「平和のとりでを築く」の作品のよさと例文から文章構成について考え、意見文の書き方を見つける。(2時間)

②指導内容

論理のよさに気づくことができるように「平和のとりでを築く」の初読の感想の中の「筆者の大牟田さんは、自分の考えと具体例を分けていてわかりやすい」という子どもの考えを取り上げて、論理について考える活動を行った。

また、文章構成のよさを見つけることができるように、「平和のとりで築く」のよさを見つけて、自分の考えをまとめる活動を行った。

そして、自分の考えを付加・修正するために少人数(3人～4人)で交流を行い、その後、全体での交流を行った。また、「よい意見文の書き方」を見つけることができるように「平和のとりでを築く」の作品のよさと教科書に記載している例文から文章構成について考える活動を行った。その後、自分の意見文の課題を明確にすることができるように「よい意見文の書き方」を手がかりに自分の意見文を推敲する活動を行った。(本時)

第三次・・

①学習内容(3時間)

- 自分の課題について調べる。(1時間)
- 情報を整理し、選択する。(1時間)
- 意見文を修正する。(1時間)

②指導内容

自分の意見文で具体例(根拠となるできごと)を見つけるためにインターネットや図書資料を活用した。本学級の子どもたちが行った情報収集活動は、学校図書館、地域の図書館、インターネットによるものであった。

情報を整理し、選択することができるように調べた情報をカードに書き、自分が修正したいことに関係するカードの絞り込みをする活動を設定した。このカードを用いた活動は、子どもが具体例の選択をしたり、具体例の順序を考えたりするには、有効であったと考える。

また、自分の意見文を修正することができるように「現在も戦争で苦しんでいる」ということを抽象的に自分の考えとして述べていた子どもが「シリアという国では、国民が二つに分かれて、今も戦いが続いている」という新聞の切りぬきを使って、具体例に取り上げ、それに対して自分の考えを述

べていた事例の提示を行った。この指導を行うことにより、「自分の意見文の例は、具体的なものになっているかどうか。」という資料の具体性を検証しようとする子どもや「調べたものの中で、具体的でよりわかりやすいものはどれだろうか。」というより具体的な資料を選択しようとする子どもなど、「子ども一人一人が自分の意見文の修正する仕方がわかった。」という点が有効であったと考える。

第四次・・

①学習内容（2時間）

- メッセージ集をつくり、学級で交流する。（1時間）
- 自分の考えを伝える発表会をし、学習のまとめをする。（1時間）

②指導内容

友だちに自分の考えを伝えることができるように自分の書いた意見文をもとにスピーチの内容を考える活動を設定した。

スピーチの内容をまとめ、発表することができよう意見文の中でスピーチに使うところを赤で線を引き、話し言葉に修正する活動を行った。

学習のふり返りをするように授業参観で自分の考えを発表したときに評価カードを活用して自己評価を行う活動を設定した。

## 6. 授業の実際

### 授業1 意見文の指導について

#### (1) 授業の計画

##### 教師の手だて



自分の考えを付加・修正するために少人数（3人～4人）での交流と全体での交流を設定する。

よい意見文の書き方を見つけることができるように「平和のとりでを築く」の作品と例文から論理のよさについて考える活動を行う。

##### 【本時でつきたい力】

より効果的に伝えることができる文書構成に気づくことができる。

##### 【本時の言語活動】

「平和のとりでを築く」の文章構成のよさを見つけるために自分の考えをつくり、交流する活動を行う。

##### 【本時の活動計画】

①『「平和のとりでを築く」』の文章構成のよさを見つけ、自分の意見文を見直そう。」というめあての確認をする。

##### 【めあて】

「平和のとりでを築く」の文章構成のよさを見つけ、自分の意見文を見直そう。

②「平和のとりでを築く」の文章構成のよさを見つけ、ノートにまとめる。

③ 自分の考えを付加・修正したり、確認したりするために少人数（3人～4人のグループ）で交流する。

④ 全体で交流し、効果的に自分の考えを伝えるための文章構成のよさをまとめる。

⑤ 自分の意見文を読み直し、修正のポイントを考える。

⑥ 本時の学習をふり返り、次の学習のめあてを確認する。

##### <文章構成のよさ>

- 1 意見をのべる。
- 2 根拠となるできごとを入れる。
- 3 予想される反論とそれに対する考えを入れる。
- 4 意見をくり返す。（強調する）

##### 児童の意識の流れ

「平和のとりでを築く」は、どうして、大牟田さんの考えが伝わってくるのだろう。どんな書き方をしているのだろうか。



ぼくは、最後に結論があるところがだと思えます。そのわけは、具体例（事実）と自分の考えを区別しているからです。



ぼくは、自分とはちがう考えを取り上げて、自分の考えをのべているところだと思えます。そのわけは、説得力がますからです。



文章構成のよさは、具体例（事実）と自分の考えを区別することと予想される反対意見をとり上げて自分の意見をのべているところです。



ぼくたちが、見つけた文章構成のよさで自分の書いた意見文を見直すともっとこうすればいいなということが見つかりました。次の時間は、自分の意見文を書き直したいです。



## (2) 授業の実際

文章構成のよさに気づくことができるように「筆者の大牟田さんは、自分の考えと具体例を分けていて分かりやすい。」という「平和のとりでを築く」の初読の感想を取り上げて、論理について考える活動を設定した。

まず、「平和のとりでを築く」の論理のよさを見つけ、自分の考えをまとめた。(一人学び) その考えを付加・修正したり、確認したりすることができるように少人数(3人～4人)の交流を行った。

<少人数(3人グループ)での交流の様子>

C1 (①児) ぼくは、最後に結論があるところだと思います。そのわけは、具体例(事実)と自分の考えを区別しているからです。

C2 (②児) ぼくは、自分とちがう考えを取り上げて、自分の考えをのべているところだと思います。そのわけは、説得力が増すからです。

C3 (③児) 説得力が増すということは、どういうことですか。

C4 (②児) 原爆ドームを残すことによって、過去のつらい体験を思い出してしまうから、取りこわすべきだという反対している人たちの考えを例にあげて、この考えをこえる一少女の日記からつたわる原爆のおそろしさがあるとのべることで説得力が増すと思います。

C5 (③児) なるほど、反対の考えもあるけど、それをこえるものがあるということが、説得力を増すということですね。ぼくは、①くんと同じ考えでしたが、②さんの話を聞いて、なるほどと思ったので、自分の考えを付け加えたいと思います。

少人数での交流後に、全体の交流を行った。

子どもたちは、「平和について考える」(教材)の中の意見文の例を手がかりに「平和のとりでを築く」を読み、下記の2点の論理のよさを見つけることができた。

- ① 意見と具体例(根拠となるできごと)を区別する
- ② 予想される反対意見を取り上げて自分の意見を述べる

次に、文章構成のよさに気がつくことができるようにこの論理のよさを手がかりに「平和のとりでを築く」と教科書の例文から文章構成のよさを見つける活動を行った。

すると下のような文章構成のよさを見つけた。

<子どもが見つけた文章構成のよさ>

- ① 意見(自分の考え)
- ② 根拠となるできごと(自分の考えの根拠となるできごと)
- ③ 予想される反対意見とそれに対する考え
- ④ 意見のくり返し(強調)

一次作文の推敲することができるようにこの文章構成のよさを目のつけどころにして、自分の一次作文を読み直す活動を行った。

すると、学習のふり返りのときに、以下のような感想が子どもから出てきた。

<子どもの学習のふり返り①>

- ・ ぼくの意見文は、「戦争はだめだ」という自分の考えに対して、具体例も「人の命をうぼうからいけない」という自分の考えになっていることに気がきました。どちらも自分の考えになっていて、根拠となるできごとを入れたら、説得力が増すということに気づきました。
- ・ わたしの意見文は、「原子力発電はいけない」ということを伝えようと思って意見文を書いたのですが、「原子力発電の賛成」の意見を入れて、自分の考えをのべるとさらに説得力が増すということに気がきました。

という論理のよさに目をつけて、推敲した子どもの姿が見られた。

また、次の学習のふり返りは、文章構成に目をつけている子どもの姿が見られた。

<子どもの学習のふり返り②>

- ・ 「意見」「根拠となるできごと」「予想される反対意見とその考え」「意見のくり返し」という構成にしたら、自分の意見文が分かりやすくなったことに気がきました。
- ・ ぼくは、「戦争はいけない」という「意見」と「戦争による死者の数(資料)」という「根拠となるできごと」という意見文でした。「テロを防ぐ武力による沈圧も必要」という予想される反対意見とそれに対する考えをのべて、最後にもう一度、自分の考えをのべるという文章構成にするとさらに説得力が増すと思いました。

このように子どもたちは、論理のよさ、文章構成のよさを目のつけどころにして、自分の一次作文を推敲し、自分の意見文の修正ポイントを明確にしていっていったことが言える。

## 7 実践のまとめ

### (1) 成果

#### 価値目標

- 人や社会に目を向けて、自分や自分の考えを見つめ直し、自分を再発見したり、考えを再構築したりすることができる。

自分の意見文を修正するために、情報を収集し、友だちと意見を交流する活動を行った。すると、「戦争はいけない」と漠然と考えていた子どもたちは、「戦争で右手を失った弟の見て泣く子どもの姿」や「鉄砲をもっている子どもの姿」などの資料から、「人を殺し合う戦争はいやだ。そんな殺し合いは、ぼくはしない。」など具体的に自分の考えをもつようになった。平和に関する資料を意欲的に調べ、社会への見方・考え方を広げ・深めていったことが評価できる。

#### 態度目標

- 目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、全体の構成を考えながら、適切に書こうとすることができる。

全体の構成を考えながら、適切に書こうとする子どもの思いを引き出すために子どものはじめの考え（一次作文）をつくる活動を導入場面で設定した。

「わかりにくい」ということを実感することにより、「自分の言いたいことが伝わる作文をつくりたい」という思いを表出することができたと考える。

#### 技能目標

- 考えたことなどから書くことを決めることができるように比較したり、関係付けたりしながら課題意識を明確にすることができる。
- 自分の考えを明確に表現することができるように目的や意図に応じて効果的に頭括型・尾括型・双括型などを用いて、文章構成することができる。
- 自分の考えが伝わるように効果的にグラフや図を用いたり、引用したりして書くことができる。

自分の考えを分かりやすく伝えるために「平和のとりでを築く」と意見文例から、文章構成のよさを見つける活動を行った。すると「論理のよさを使って、文章構成を考えると分かりやすい。」ということに気がつき、分かりやすい文章構成のポイントをつくった。

#### <分かりやすい文章構成のポイント>

- ① 意見
- ② 根拠となるできごと
- ③ 予想される反論とそれに対する考え
- ④ 意見のくり返し

### (2) 課題

- ・ 一次作文と比較して二次作文は、文章構成のポイントを意識しながら付加・修正することができたが、教科書の例文のような「自分の考えが伝わる意見文」には至らなかった。

### (3)単元を終えて

単元の学習を終えて、子ども一人一人の戦争や平和に対する見方・考え方を広げ、深めることができた。また、世界で起こっている戦争などにも関心を持ち、新聞やテレビでの報道が、日常の会話の中に表れるようになった。

意見文を書くことについては、

- ① 自分の考えと関係づけて具体例を収集し、選択すること
  - ② 自分の言いたいことが相手に伝わるか、具体例の順序や論理を考えて書くこと
- このような子どもの姿が見られるようになったことが評価できる。